

登録コード	J5180200	開講年度	2026				
授業科目	金融論B					担当教員	ウェステニウス 嘉晃
英文授業名	Monetary Economics B					副担当	
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	火曜・4時限	対象学年	(20・23カリ対象科目) 経：2年
講義室	経法第3講義室		授業区分	講義	遠隔授業科目		
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」					【授業の達成目標】	
	経法20加						
	経済学または法学が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。					金融論が積み上げてきた知識と思考に基づく判断を基礎力として身につけ、それを発揮できる力を身につける。	
	経法23加(2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済, 経法20加・応用経済						
	専門知識を応用・実践する力として、計量的分析手法によるデータ解析を用いたリスクの定量的評価、実験経済学による社会制度の機能の検証、医療や福祉の現場における社会調査の手法を実践した地域の問題発掘、法の経済分析を通じた法制度の効果・影響の検証、などのスキルを習得し、経済の実情に即した政策提言、あるいは企業行動の決定を行うことができる能力を身につける。					専門知識を応用・実践する力として、資金調達に関して経済の実情に即した企業行動の決定を行うことができるようになる。	
	経法23加(2026改)・応用経済, 経法23加・応用経済						
	【2020年度以降加付対象】専門領域での基礎知識として、経済学に基づく論理的思考法及び統計的分析手法を身につける。そして、経済理論の応用分野として、金融、公共政策、法や制度の経済分析をテーマとする3つの専門コースで、専門知識を具体的な問題解決に実践する力を身につける。					専門領域での基礎知識として、経済主体の資産選択や資金調達に関する理論に基づく基礎レベルの論理的思考法を身につける。	
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	この講義では、(i)家計の資産選択や(ii)企業の資金調達に関する理論を中心に、ファイナンス理論の基本的な知識について教科書に基づきながら説明する。第一に、金融市場における取引や金融資産の評価について説明する。第二に、家計の資産選択や金融市場における資産価格の決定に関する理論の解説を行う。第三に、コーポレート・ファイナンスと呼ばれる分野で扱われる、企業の実物投資や資金調達の意思決定に関する理論について解説する。						
(5)授業計画	第1回 金融取引 第2回 債券市場 第3回 株式市場 第4回 リスク資産のリターンとリスク 第5回 ポートフォリオのリスク分散効果 第6回 リスクと家計の意思決定 第7回 ポートフォリオ構築のための統計尺度、確認テスト 第8回 ポートフォリオ・フロンティア 第9回 最適ポートフォリオ 第10回 資本資産評価モデル(CAPM) 第11回 企業の実物投資 第12回 企業の資金調達 第13回 モジリアーニ・ミラーの定理 第14回 修正MM定理 第15回 企業の財務戦略とガバナンス、授業アンケート(最後の15分で実施) 期末試験						
(6)成績評価の方法	確認テスト(30%) + 期末試験(70%) 確認テストは学期中にeALPS上で実施する(実施日については初回の授業で説明する)。						
(7)成績評価の基準	授業で示した例題と同レベルの問題が解ければ「合格水準にある」、応用問題が解ければ「やや上にある」、やや難しい応用問題が解ければ「かなり上にある」、例題からは難しい応用問題が解ければ「卓越している」。						
(8)事前事後学習の内容	講義内容に関する問題を毎回提示するので、その問題を解くことによって講義内容を毎回復習しておくこと。						
(9)履修上の注意	・経済数学の基礎的な知識を前提とする。 ・Microsoft Excelなどの表計算ソフトを使える環境を整えておくこと。						
(10)質問,相談への対応	・講義中の質問を歓迎する。 ・個別の質問・相談がある場合は、まずはメールにて受け付ける。 ・メールアドレスとオフィスアワーについては初回の講義で案内する。						
【教科書】	清水克俊『金融経済学入門』(東京大学出版会, 2018年)						
【参考書】	授業において指示する。						